

## 研究課題

社会を形成する力の育成を目指す  
教育課程の編成と校長の在り方

## I 趣 旨

渡島・北斗大会の反省を受け、「キャリア教育」との整理を図り、本大会では研究課題を「社会を形成する力の育成」として教育課程編成などについて究明することとした。

近年、家庭の養育姿勢や地域コミュニティの変化に伴い地域活動への参加機会が減少し、子どもたちが社会性を高めたり、人間関係を育み広げる機会が減り、人々の孤立化や文化・規範の次世代への継承が危惧されている。

一方、災害等による被災地においては、避難所運営やお年寄りの世話、地域復興に向けたボランティア活動や支援活動を通して、地域コミュニティの形成、発展の必要性が示されている。

こうした状況を踏まえ、教育基本法、学校教育法、第2期教育振興計画等の教育政策においても、「社会を形成する力」を培っていくことの重要性が明確に示されている。

本分科会の研究課題は、「社会を形成する力の育成を目指す教育課程の編成と校長の在り方」である。

リーダーシップ視点の1では、「どう地域との結びつきを醸成する機会を設定するか」「地域の一員としての自覚を促すためにどのような教育活動に取り組ませるか」など校長の果たす役割について具体的方策を探る。

リーダーシップ視点2では、地域との関わりを深めるために、学校が主体的になって取り組むべきものの整理や教科で醸成した知識や技能を社会の活動に活用する姿や態度を育てる教育課程を編成していくための校長の果たすべき役割と指導性について明らかにしていく。

## II 研究発表及び協議

## 1 研究発表

「社会を形成する力の育成を目指す  
教育課程の編成と校長の在り方」

帯広地区 帯広市立緑丘小学校 山崎 則夫

## 2 研究の概要

平成25年度全国学力・学習状況調査児童質問紙結果に見る、「自分自身や他者、社会との関わりに関する意識」に関する帯広市の児童の実態は次のとおりである。

- ①規範意識と将来の夢や目標をもっている児童の割合は全国並みであるが、自尊感情は全国平均を下回っている。
- ②他者を理解しようとする意識は、全国を上回っている。ので、地域の行事等体験活動を充実させることで、身の回りの事象に対する関心を高めることができると考えられる。

そのため、昨年度の渡島・北斗大会の成果・課題の検討により明らかにされたキャリア教育での「社会形成能力」と本分科会で目指す「社会を形成する力」の押さえをもとに研究の全体構造を再構築するとともに、「社会を形成する力の育成」という視点でとらえ直し、教育課程を編成する校長の役割と指導性を究明することとした。

## 3 リーダーシップの視点に基づく具体的実践例

## (1) リーダーシップの視点1

「社会に貢献する力の育成を目指す教育活動の創造」

- ①地域組織・行事と教育活動の関連付け
- ②祖父母に地域を学ぶ教育活動

## (2) リーダーシップの視点2

「自立した社会人を育成するための教育課程の編成・実施・評価・改善」

- ①各教科等の「社会を形成する力」を教育課程に位置付ける。

## 4 まとめ

## (1) 成果

- ①地域との関わりを切り口にした体験活動は、地域へ興味・関心を広げるだけではなく、人と積極的に関わろうとする気持ちや地域の一員としての自覚に結び付くという成果が得られるなど大変有効であることがわかった。

- ②校長のリーダーシップ発揮の成否の鍵は、教育課程編成段階である。自校の児童及び地域の実態を的確につかみ、重点として取り組む課題を位置付けた経営計画を示すことが強く求められる。そして、分掌

学年隔々まで浸透させるために、いかに組織を動かすかが校長の手腕の発揮どころである。さらに、地域組織との日常的な関わりをいかに進めるかも重要である。

- ③「絆を育む学校づくり支援事業」等を分析する中で、これまで市内で実践されてきた教育活動の多くは、社会を形成する力の育成につながる要素が多分に含まれていることがわかった。
- ④全く新たな取組に着手することが、社会を形成する力の育成のための必須要件ではなく、これまでの取組を視点を変えて再構築することが現実的である。
- ⑤この研究は、キャリア教育の「社会形成能力」からスタートしたが、「社会を形成する力」のより大きな視点で教育計画を見直すことができた。

## (2) 課題

- ①地域の人材や資源を有効活用して体験活動を充実させるために、市内全校で設置されている学校支援地域本部とのより一層の連携が求められる。
- ②中学校区で組織されている幼保小中連携委員会の活動計画を、「社会を形成する力」のフィルターを通して見直す取組が必要である。
- ③今後、社会を形成する力がどのような力であるか、その構成要素を研究し、より明らかにしていくために、実践の成果を交流することで解明が一層進むことが期待できる。
- ④体験活動は教育活動の効果を高めるが、目標達成のためにどのような地域素材・体験が有効かを判断するリーダーシップが校長に求められる。

## 5 研究協議（グループ協議から）

### (1) 地域との活動の具体例

- ①地域の特性を生かした教育活動例
  - ・文教ゾーン幼保小中高専大学異校種連携
  - ・田植え ・元大学の先生によるさけ学習 等
- ②社会生活や規範意識を身に付けさせる教育活動例
  - ・あいさつ運動 ・交通安全運動 等
- ③地域・PTA主体行事と学校教育活動とのリンク
  - ・サタデースクール ・ラジオ体操 ・餅つき
  - ・クリスマス ・キャンプ ・自転車教室
  - ・防犯教室 ・防災教室 ・地域開放事業
  - ・七夕まつり ・ふるさと教育 等
- ④ボランティア活動・奉仕活動
  - ・海浜清掃 ・花壇・全校清掃

### (2) リーダーシップの視点1「社会に貢献する力の育成を目指す教育活動の創造」に関わって

- ①地域の「ひと」と関わる、自然や文化「もの」を探る、伝統を受け継ぐ「こと」を学ぶ等、地域と連携した

学習活動が大切であり、地域に参画・貢献する力が社会を形成する力になるのではないか。

- ②地域と意図的に交流しながら、地域の活動から校長が社会を形成する力となる教育活動を発掘し、経営方針に盛り込んでいくことも重要ではない。
  - ③経営方針を意識した取組にするために、目的を明確にしたり新しい形式で行ったり全町的に取り組むことなども重要ではないか。
  - ④育てたい子ども像を明らかにしながら、現在の活動を地域との活動に結び付けていくことが重要である。
  - ⑤地域によって育てていかなければいけない力に違いがあるのではないか。
  - ⑥小学校段階でどこまでやればいいのか検討も必要である。
  - ⑦地域が負担になったり、学校が負担になっているケースも見られる。
  - ⑧やることに重きが置かれ、教育課程に位置付けていないケースや位置付けられないケースが見られる。
- (2) リーダーシップの視点2「自立した社会人を育成するための教育課程の編成・実施・評価・改善」に関わって
- ①「社会を形成する力」を校長として整理していく必要がある。
  - ②何のために学ぶのか、学ぶ目的を校長も教師もしっかり意識することが重要である。
  - ③活動を価値付けて構造化することが重要である。
  - ④子どもの実態に応じて、重点化を図る必要がある。
  - ⑤地域教材発掘とクロスカリキュラム化が重要である。
  - ⑥学びを高めるために、教育課程を充実させるクロスカリキュラム化が重要である。
  - ⑦今まで行っていたバラバラの活動を意識付けて活動を再編成することが重要である。
  - ⑧これまで社会を形成する力を育てる取組として意識していなかった活動を、意識をもって取り組むことが重要である。
  - ⑨特別に新しいことをやるのではなく、今やっている活動を社会を形成する力のフィルターで自校の教育活動・年間指導計画を見直すことが重要である。
  - ⑩個人シートを有効活用して取り組むことも良い。
  - ⑪地域の協力が厚すぎて時数面での悩みもあり、焦点化を図っていく必要がある。

## Ⅲ ま と め

本分科会では、帯広市立緑丘小学校山崎校長の研究発表をもとに、社会を形成する力の育成の視点を踏まえ、

リーダーシップ視点1では、地域に貢献する力の育成を目指す教育活動を創造するための校長の果たすべき役割と指導性を、リーダーシップ視点2では、社会づくりに貢献しようとする意欲と態度を育て、自立した社会人として生きていくための基盤となる力を付けさせる教育課程を編成・実施・評価・改善していくための校長の果たすべき役割と指導性について協議を行ってきた。具体的には、

- ①「社会を形成する力」をどのように押さえるか。
- ②地域の活動を生かす学校の教育活動との関わりと校長の指導性
- ③社会を形成する力を高める教育課程編成と校長の関わりを中心に討議が行われた。

はじめに、「社会を形成する力」をどのようにとらえるかについて、趣旨説明の中で、「社会を形成する力」とは、「自分の役割を果たしつつ、他者と協力して、社会の様々な活動に参画し、今後の社会を積極的に形成していこうとする力」と説明した。第13分科会キャリア教育の「社会形成能力」は「勤労観、職業観を育む」ことに焦点化することで、本分科会との違いを明確にした。

それを受けて、具体的に「どのような教育活動で育成される、どんな力が社会を形成する力」なのかについて、各グループで協議した。

その結果、「社会を形成する力」の育成に向かうものとして、具体的に様々な教育活動を通して育成される力をキーワードとして整理した。教育活動としては、

- ①地域を愛し、地域に発信し、地域に貢献しようとする意欲を高めるために、地域の特性を生かした体験活動
- ②地域や社会との関わりの中で生きていこうとする意欲を高めるために、社会生活や基本的ルールや規範意識を身に付けさせる教育活動
- ③他者に積極的に関わり、自分の世界を広げていこうとする態度を養うために地域行事と学校の教育活動との関連付け
- ④世のため人のためになることを進んで行おうとする態度を養うためにボランティア活動や奉仕活動

次に、目指す子ども像は、

- ①対象に働きかけ、主体的に問題解決に取り組む子ども
- ②自他のよさを認め、共に関わりながら学びを広げていく子ども

である。そのために身に付けさせたい力は、

- ①役割と責任を自覚する力 ②対象や他者に働きかける力
  - ③他者を共感的に理解する力 ④コミュニケーション力
  - ⑤チームワーク ⑥リーダーシップ
- などである。

最後に「社会を形成する力」の育成を推進する教育課程をどのように編成・実施していくかについて、キーワードで整理すると

- ①地域教材の発掘とカリキュラム化
- ②社会を形成する力のフィルターで自校教育活動を見直す
- ③学びを高めるために教育課程を充実させるために、クロスカリキュラム化する
- ④地域組織や地域との連携が考えられる。

「社会を形成する力」を育成する教育課程を編成・実施していくためには、何か新しいことを実践するのではなく、現在の教育活動を「社会を形成する力」のフィルターを通して見つめ直し、整理することから始めるのがよいのではないか、という意見が多かった。そして、教育課程の質を高めるために、教育課程を横断的に見直すことも有効であることがわかった。

第6分科会は、本年度の大会で進むべき方向性が一定程度明らかになったことと思う。さらに、「社会を形成する力」は、今、学校で求められる重要な教育課題であることが交流・共通理解できたことは大きな意義である。本日の協議を踏まえ、各学校の実践が充実することを期待する。

### 「第6分科会に参加して」

帯広市立光南小学校 大 島 健

「歴史と伝統文化の香りただよう、優駿の里」新冠町・新日高町で開催された日高大会の第6分科会は、42名の参加者を得て、帯広市地区の発表を中心に始まりました。

研究発表は、「社会を形成する力の育成を目指す教育課程の編成と校長の在り方」を課題に、「社会に貢献する力の育成を目指す教育活動の創造」「自立した社会人を育成するための教育課程の編成・実施・評価・改善」について現状分析や具体的な実践例を基に成果と課題を明らかにしました。

発表を終え、全体での意見交換後、グループ討議が行われました。5～6名ほどの少人数での話しやすい雰囲気の中、各地区から「地域の活動を生かす学校の教育活動」、「社会を形成する力を高める教育課程の編成」等に関わっての校長の指導性の在り方などが、各地区の現状や抱える課題とともに交流がなされ、大変有意義な分科会となりました。

最後になりますが、大きな収穫を与えてくださり、充実した研究大会の準備に携われました事務局・実行委員の皆様にご心より感謝申し上げます。